

蔵前テニスクラブ 会誌

1993 23号

蔵前テニスクラブ
東京工業大学硬式庭球部

目 次

表 題 会長 久保 康夫
写 真 OB会風景
 現役部員

1. 寄 稿 1

- | | | |
|----------------------------------|-----|-------------------|
| (1) 「ご挨拶」 | 会 長 | 久 保 康 夫 (昭22・機械) |
| (2) 「ご挨拶」 | 副会長 | 村 上 祐 輔 (昭28・化学) |
| (3) 「こゝぞという時」 | 副会長 | 平 井 満 夫 (昭31・化工) |
| (4) 「部長(顧問教官) 就任のご挨拶」 | 部 長 | 中 原 綱 光 (昭41・生産) |
| (5) 「ご挨拶」 | 前部長 | 河原田 弘 (昭37・電気) |
| (6) 「この頃」 | | 長 戸 毅 (昭19・航空) |
| (7) 「副会長退任のご挨拶」 | | 長久保 大 司 (昭27・機械) |
| (8) 「テニス歴10年 ～それでも” おやじ” はまだ強い～」 | | 平 澤 英 紀 (昭62・電電) |

2. 会員便り (近況報告) 13

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 山 科 雄 吉 (昭17・応化) | 高 田 重 之 (昭7・応化) |
| 青 山 秀三郎 (昭9・機械) | 植 田 賢 一 (昭14・応化) |
| 高 村 清 (昭16・建築) | 津 田 泰 雄 (昭18・機械) |
| 染 野 檀 (昭19・金属, 元部長) | 井 本 商 三 (昭19・電化) |
| 田 中 竜 雄 (昭28・) | 森 辰 男 (昭28・) |
| 磯 島 和 彦 (元コーチ) | 木 村 俊 宏 (昭40・電気) |
| 寺 尾 道 仁 (昭40・建築) | 中 村 健 (昭47・機物) |
| 中 村 良 雄 (昭48・建築) | 池 田 憲 亮 (昭53・化工) |
| 茶 谷 嘉 之 (昭56・電電) | |

3. 蔵前テニスクラブ活動報告..... 19

(1) 平成4年度蔵前テニスクラブ総会報告

(2) 平成3年度蔵前テニスクラブ会計報告

(3) 平成4年度蔵前テニスクラブ会計報告

(4) 蔵前テニスクラブ規約

(5) 会費納入のお願い

4. 現役活動報告..... 29

(1) 平成3年度の戦績

(2) 平成4年度の戦績

(3) 「3年間の部活を振り返って」

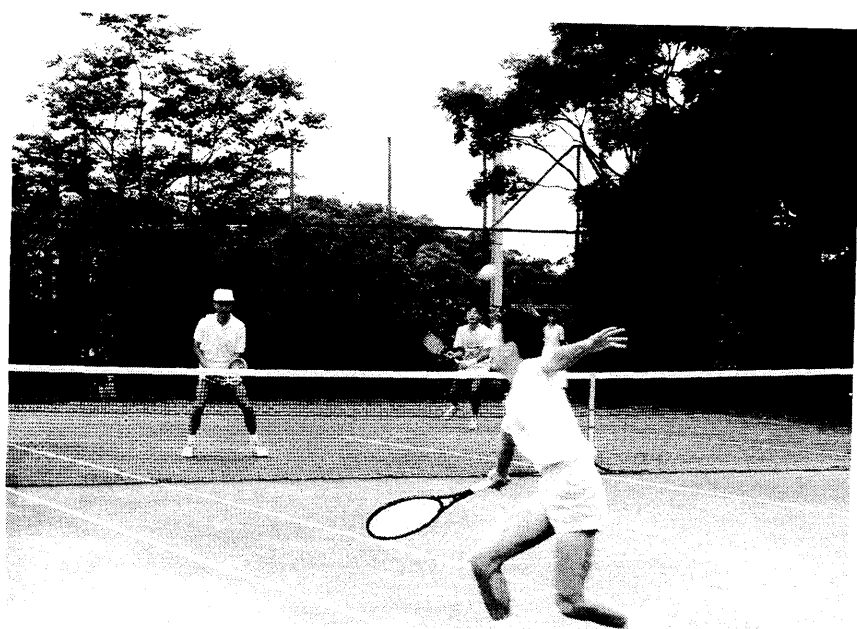
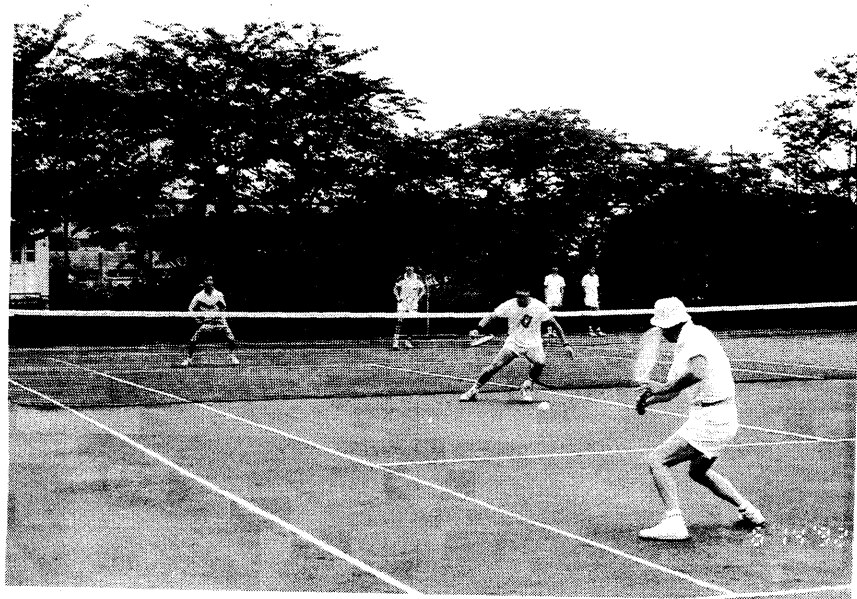
平成4年度	主	将	片	倉	洋
〃	主	務	畑		毅
〃	女子部主将		稲	葉	有紀子
〃	女子部主務		大	高	かおり

(4) 「新年度に向けて」

平成5年度	主	将	柳	瀬	徹
〃	主	務	清	藤	幹雄
〃	女子部主将		井	上	薫
〃	女子部主務		国	久	亜希子

5. 編集後記..... 43

OB会風景（平成4年春期）



OB会風景（平成4年春期）



現役部員（平成4年度）



1. 寄 稿

「ご 挨拶」

会長 久保 康夫 (昭22・機械)

長戸前会長の跡を継いで、早くも一年が過ぎて行きました。その間で印象に残ることと言えば、男子部が念願の昇部に今一步のところまで達し、しかも、年々有望な新人の入部を得て、部全体のレベルが上がり、部員間の競争、切磋琢磨の気運の昂揚が肌で感じ取れること。女子部が部員の増加によって、正規に認められた女子庭球部に育ち、男子部の熱気も伝わるのが、これ又、躍進の緒に着いたことです。

私は、機会が得られればコートを訪ねるようにして居りますが、部員の努力を賞で、少しでも励ましになれば、又、時には、私でも気付くフォームの基本に係る欠点を指摘してあげることも出来るし。特に後者は、若い肉体ならではの素晴らしさからか、アッという間に改善し、身につけて行く姿に、私自身も喜しくなって終うという余祿も得られるのです。

さて、私は、戦前にも戦後にも入らない所謂戦中派の人間です。そのため、戦後は評論家達から覇気の足りない年代との悪評を受ける立場に在りました。一方、今の混沌たる世相は、かえって若い人達に自分の未来について真剣に考えさせ、強い人間に育つための良いチャンスを与えたのではないかと喜んでいる者でもあります。

最近、特にメッキが剥げて、軽薄な言動の結果が目立って来た戦前・戦後の名称が戦中の前後に付く人々との思考の原点での相違を、又、これ等の人々の批判をまるで第三者的な立場から、派手に打ち上げることで点を稼ぎ、改善への努力に自らの手を汚す気配が欠けて見える人達とも肌が合わない原因を、今こそ若い人達に判って頂きたく、吾々戦中派が生きた最も感受性の強い青春時代の代表的経験を伝えたいと思います。そうすることによって、これからの日本を、背負って立つ、今までの豊かで平和な日本から一転した波瀾に満ちた人生に立ち向かうことになった若い人達に「吾々の先輩達が結構苦勞して生き抜いて来たのだ」と思い起こし、自らを励ますのに役立てて貰えれば幸いと思うのです。

“昨夜は家族との団欒の中に床に就いたであろう市民の肉体から滴り落ちた脂汁で黒ずんだ焼土、その焼土との境いが見別け難いほど炭化した見渡す限り累々たる屍の堆積、余りにも虚し過ぎる人の生命” 今の若い人達には想像すら難しいであろう修羅場から眼をそらすことも許されないうために味わされた心の動揺と葛藤。

“心の支えとし、好ましく思っていた友ほど早く、戦場で散らされて逝った”との終戦直後のクラス会で味わった悔悟。”これ等の深く悲しい心の傷跡の整理も終わらない中に、「今迄に教えられたことは全て間違いであり、吾々はその被害者にされたのだ。」等々、ぬけゆけと発言する掌を返すが如き多くの評論家達、これに迎合する変わり身の早い人々、その人々の戦中の言動が未だ記憶に新しいだけに噴き出る憤りと不信。やがて時が経ち、“忘却”という人にとって大切な妙薬が、生きて行く上で不必要な、又、思考に妨げとなる記憶を消去してくれ、【こうして生きていること自体を大切に思うことが全ての救いで、他人の生きんとする努力も大切にせねば。……】

『戦争というものは、人の生命の尊さを軽視し、忘れさせること無しには実行出来ない性質のもので、次々と人の心を蝕んで獣に変えて終う。……』との究極の悟り。『戦争の無い世界を、其の前に戦争の気運を盛り上げる主因となった貧困の無い豊かな日本を造り、衣食足りて、礼節を知るという言葉を思いださせる今の世情を改めることが先決』との決意。

この決意に達し、懸命に働き出す迄の年月は、正に沈黙の時であり、其の間、世の討論には敢えて加わらなかったと言える。

「今までに教えられたことは全て間違い……」とは、【なんと自主性の無い言葉か!!】その様な自主性・反省の無い人々を軽侮して、討論する気も起らず、経済的成長に全てを傾注していたと言い替えられる期間でもあった。さて、幸運も手伝って、又、戦後の施政と持前の勤勉さ、親の子供に対する教育への熱意など、日本・日本人の良いところのみが奇跡的に乗々され、世界から妬まれるまでに豊かな国に成長しました。一方、日本だけでは食べて行かれ無いところまで、しかし妬まれても良い、頼られても良い、矢張り成長していて良かったというのが本当でありましょう。成長させ過ぎて終ったという反省も無くはないのですが……。

願わくば、社会人として世間に対する責任が問われ始める前に、○×式勉強で頭でっかちになったであろう、特に下身を鍛え上げ、“教えられて憶える。”から、自主的な勉強・検討能力を持つ人になるよう、そのためには健全な体力とその中に宿る強健な精神を、部生活の苦勞を楽しみに変える努力で培い、波瀾に満ちた将来での幸せを掴む端緒にして欲しいと思います。

追記『衣食足りて、礼節を知る』という前記の諺は、今、現在の混乱した世界を救う上での基本ともなるでしょう。

(平成5年4月)

「ご 挨 拶」

村上 祐輔 (昭28・化学)

ある日、前副会長の長久保さんより「実は僕もだいぶ長いこと幹事をやったのでそろそろかわっては」との電話がありました。

長いこと皆様のお世話になっているので、なにか下働きでもしてお役にたてばと思い幹事を引受ける事にしました。所がよくよく考えて見ると長久保先輩は幹事といっても副会長であり、そのような重責のある副会長をお引受けするわけにはいかないので、これは大変と電話をしたら「いや副会長と言っても今までより年に2～3回余計に打合わせ会に出席するだけでたいした事はないよ、会長はちょっと大変であるけれど」とのご返事を頂戴し、結局はお引受けすることになりました。勿論最終的には昨年の爽快で決まりました。

お引受けしたけど本当はこの伝統ある蔵前テニスクラブの副会長は私にとって重荷と感じられ今でもそう思っております。でも出来るだけの事はいたします。

さて、皆様との接触するチャンスは言うまでもなくいわゆるOB戦であります。

春、秋と年2回のOB戦には以前はだいぶ御無沙汰しておりました。最近は暇もでき努めて出席する事にして、皆様及び学生時代一緒にテニスをして共に苦労した連中に会うのを楽しみにしております。

しかし私の非社交性のせいもあり会員の皆様特に若手の方々の顔と名前が未だ一致せず皆様に不愉快な思いをさせたのではないかと現在反省しております。又勉強に忙しい学生諸君に何時もOB戦では一日中OBのために一生懸命ボール拾い、コート整備、事務万端等を行って戴き大変感謝しております。

いくら伝統ある蔵前テニスクラブといっても会員一人一人が楽しく参加出来なくては意味がありません。蔵前テニスクラブが繁栄してそして会員の皆様一人一人が楽しいと思うクラブ、これが私の目標であります。

微力ではありますが、今後出来るだけのことを致しますので皆様の御協力をお願い致します。

「追記」

昨年の秋から今年にかけて学生諸君の試合をいくつか拝見しました。若さいっぱい全部員が一丸となつての大声援、応援と選手が一体となつての総力戦でした。勿論選手も元気に活躍し、そ

の上技術的にもハイレベルでOBの一人としてうれしく思いました。

女子の試合では昨年の秋の日本獣医大戦、そして半年後の今春の産能大戦を見て大変上達したという感じを受けました。皆さんは進歩という階段を着実に一段一段と登っています。しかしまだまだ進歩という階段を登らなければなりません。

その若さで頑張ってください。でも楽しく、一回しかない人生だから。

(平成5年4月)

「ここぞという時」

平井 満夫 (昭31・化工)

テニスはマッチポイントさえ落とさなければ勝てるというのは理屈である。人間誰しもここぞというポイントでは思う存分力を出して勝ちたいと思うものだが、なかなかそうはいかないものである。

どうすればここぞという時に強くなれるのであろうか。特効薬でもあれば苦労はしないが、みんな同じことを考えているから、結局は自分なりに処方箋を見つける以外に方法はなさそうである。

勝負には多分に性格的なものが現れる。いくら練習しても稽古場横綱的な人もいれば、練習では目立たないが試合では勝負強さを発揮する人もいる。

しかし、前者の様なタイプの人でも気持ちの持ち方次第で勝負強くなれる筈である。それに関して私なりに印象に残っている話を二つばかり紹介したい。

私の幼い時からの親友で滅法勝負強い男がいる。彼は高校三年の時、シングルスで高校日本一になり、慶応大学時代は全日本ランキングで確か八位まで行ったことがある。芥川和之君といって今は三菱樹脂(株)の常務をしている。学生時代の彼のテニスには目を見張る様な華麗さはなかったが、ここぞという時の勝負強さには独特のものがあって、アクタローなどという仇名を頂戴していた。

その彼に、どうして君はここぞという時に強いのかと聞いたことがある。彼の答えは、「俺はここぞと思っても普通にやっているだけだよ。ところが相手が普通でなくなって、たまたま勝て

るだけさ。」というものだった。

もう一つ思い当るのは元横綱千代の富士の話である。テレビ解説をしている彼にアナウンサーが、「千代の富士さんはどうしてここ一番という時に強かったのですかね。」と聞くと、彼の答えは、「稽古の時から本場所の一番を思い浮かべてやってました。」というものだった。

日頃の練習で体力や技術というフィジカル面の向上が無論欠かせないが、本場の試合をイメージしたメンタルトレーニングも、それに劣らず大切ということだろうと思う。現役諸兄に何らかの参考になれば幸いである。

(平成5年4月)

「部長（顧問教官）就任のご挨拶」

部長 中原 綱光（昭41・生産）

1986年の秋に、内藤喜之先生から河原田弘先生が部長を、また河原田先生は長津田キャンパスにおられるので、大岡山キャンパス勤務の私が副部長の形で引継ぎました。河原田先生が引継がれたとき大学のテニスコートが体育の授業に使用されることに遭遇されたり、コートの維持管理や部の技術向上に助言されるなど、長津田キャンパスにおられながら当部のためにご尽力頂きました。一方、私の方は河原田先生にお任せっぱなしで部員と接触することもなく、そのため部員の方も私の存在を知らなかったせいか、私の唯一の任務である”書類に印を押すこと”もありませんでした。このような私が河原田先生から部長を引継ぐことは気が引けましたが、ご多忙な河原田先生にいつまでもお願いしているわけにもいきませんし、また女子部員が10名近くいることでもありますので、引き受けさせていただくことに致しました。7年半にわたり部のためにご尽力された河原田先生に厚く御礼を申し上げます。

私は1964（昭和39）年度の主務を勤めた本会員であります。主務を終えてからほとんどラケットをにぎることがなく、二十数年間テニスから離れておりました。ところが、45才を越える頃になると老眼や体力の衰えなど老化を実感するようになり、遅まきながら運動のために3年前からテニスを再開し、現在では週1回1～2セットのペースで楽しんでいます。体で覚えたことは忘れないものですので、テニスという年になっても楽しめるスポーツを若い時にやっておいて

よかった思っております。また、主務の経験は、不適任だったため当時は苦痛であり、周囲には迷惑をかけましたが、後になって大学の各種委員や学会の役員などを勤めてみると主務の経験は非常に役立っていることがわかりました。今では主務の経験をさせていただいたことを感謝しています。部長をお引き受けする形でその恩返しができればと思っております。

ところで、顧問教官という立場を改めて考えてみますと、顧問教官は大学の教育方針や運営方針に従うように部を管理する任務をもっていますので、ときには大学の方針と部の利益が相反する場合が生じ、その際に両者の調整をする立場になります。できるだけそのようなことがないことを祈っておりますが、そうなった時には当部にできるだけ有利になるような知恵のご提供を会員の皆様をお願い申し上げます。また、やむをえない場合には現役部員のご協力をお願い致します。

さて、我が硬式テニス部の現状ですが、先日関東学生リーグ戦の大岡山コートでの3試合の一部を観た印象では、昭和38～40年頃4部にいたときよりも実力が上で、1/4世紀もテニスから離れていた者から見ると技術の進歩が明瞭にわかります。また、公式戦として儀礼的なことも増え、応援の仕方も変わっており、浦島太郎のように時代の変化を感じました。しかし、部員が一丸となって戦っている姿や精神は昔と変わらず、胸が熱くなりました。幸い、現在部員の層も厚く、上昇の機運にありますので、私は彼らの邪魔をしないように見守りたいと思いますが、当会員の皆様には益々のご支援をお願い申し上げます。

(平成5年4月)

「ご 挨拶」

河原田 弘 (昭和37・電気)

内藤先生の後任として部長(顧問教官)をお引き受けし、同じ表題で新任のご挨拶をさせていただいてから6年になりますが、この4月からこれまで副部長をしていただいておりますテニス部OB階の中原綱光先生に代わっていただきました。長津田キャンパスに居ります関係でコートにあまり顔を出せず、また大してお役に立てなかったことを申し訳なく思っております。

この機会に、まずお世話になった皆様に部員一同と共にお礼を申し上げます。OB会の皆様には常日頃多大なご支援とご指導をいただいております。体育科の先生方にはコートの維持・管理

の面でお世話になっております。また、本学の職員テニスクラブの皆様には、公式戦で面数が不足した折りなどにお世話になりました。

皆様からのご支援と部員達の努力により、部の実力が上がって戦績が良くなってきたように思います。また、女子部も誕生して公式戦で活躍できるようになりました。誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

次に現役部員の諸君、諸嬢に。コートの使用時間が少ししか取れない状況で部活動を盛り上げ、うまく維持して行くことは苦労も多いことでしょう。日頃の努力に敬意を表します。これからも頑張ってください。ここで期待を少々。いままで机上でよく勉強してきた物理学をプレイに生かした東工大プレイスタイルを作ってください。詳しいことはまたの機会に。

最後に、これから春と空きのOB会にはできるだけ参加させていただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

(平成5年4月)

「この頃」

長戸 毅(昭19・航空)

胆石の手術をしてからもう2年以上が過ぎました。もう悪いところはないのだが好きなようにしていいよと医者に云われましたが、6ヶ月おきに検査に行っています。酒は飲んでもいいが、運動は続けるようにと云われまして、なるべくテニスに精を出しております。

普段は、馬込テニスクラブでプレーを楽しんでおります。このクラブは工大で同期の河原さんのクラブで、ご本人の敷地内に7面あり、高齢者もおりますので、週一回位行っています。自宅が大崎ですで大変便利にしております。

夏には毎年旧制高等学校の全国OBインターハイと称して同好OBの会が行われます。旧制高校の最後の卒業生も60才を超えてしまいましたので、出場者を確保するのが一仕事になっています。当日は応援もいれて数百名の元気のいい高齢者が集まります。また秋には、工大のコートをお借りして、東北ゾーンの大会を開いています。終わって夜は元気に寮歌をどなるというコースになります。

最近は特定の学校との親睦試合も行われているようです。4月は、松本高校OBと私の新潟高校OB戦を榛名まで出かけて一泊して2日間やってきました。両校で夫人もいれて、30名程集まり盛大でした。80才を超す方もおられまして、非常にお上手で大いに感心すると同時に後輩としては前途に希望を大きくすることができました。

各種イベントの大会も見るようにしています。過日は許さんと東レの大会を見に新横浜まで行ってきました。ナブラチロワが単複共に優勝でした。

腰、ひざ、ひじを痛くする人が多いのですが、あまり無理をしないでやっておりますので、当方は目下のところ無難です。楽しむテニスを心がけることになりました。

工大のOB戦を楽しみにしております。

(平成5年4月)

「副会長退任のご挨拶」

長久保 大司 (昭27・機械)

平成4年度総会の役員改選において私の副会長退任のご承認を頂きました。

昭和59年から幹事会に参加し、蔵前テニスクラブの発展の中でテニスに接し楽しませて戴きました。この期間、中島元会長・長戸前会長・久保現会長の御努力と御熱意に各幹事の御活躍が実って今日のOB会があると思います。

春・秋のOB会に参加して毎回感じる事は、積極的に出席するOBのテニス振りが社会で活躍する姿勢そのものを現しており、現役の目に良い励ましと映っていると思います。これからも、OB自身のテニスをエンジョイしながら、物心両面からの現役へのサポートを行うOB会の活動を願っております。

また、現役の活動報告も活気があり、一時の沈滞を脱して、各リーグ戦の成績の向上が顕著です。特筆したいのは、平成3年度の活動報告から女子部の主将・主務が独立した上、立派な成績を残していることです。

久保会長のご熱意と各役員のご努力のもと、蔵前テニスクラブの特徴のある発展を願って副会長退任のご挨拶と致します。

(平成5年4月)

『テニス歴10年 ～それでも“おやじ”はまだ強い～』

平澤 英紀 (昭62・電電)

テニス部に“初心者”として入部してから、早いもので10年が経ちました。大学入学以来、テニス部で3年、研究室時代に長津田で3年、その後セコム（株）に入社してこの4月で5年目になります。現役時代は“初心者”であるのをいいことに、強い下級生や他大学の強い人を見ると、「自分はまだテニス歴が浅いのだから」などとよく思ったりしたものです。この10年を振り返ってみると、テニスの技術という面では現役引退後の研究室時代に最も伸びたのではないかと感じています。今、この文章を読んで下さっている初心者の現役のみなさん、テニスは4～5年かかります。また、その後もずっと一生できるスポーツです。現役時代は辛く厳しいこともあります。あせらず、じっくり技を磨いていきましょう。

さて私の近況はというと、現在、会社のテニス部で東京実業団リーグに出させてもらっています。社会人1年目の頃は、遊びのテニスもいいなと思ったこともありましたが、どうも不完全燃焼というか物足りなさがありました。やはり体育会の血とでもいいましょうか、マジなテニス、しかも団体戦の緊張感はいつになってもいいものです。と、偉そうなことを書きましたが、戦績は大したことはありません。社会人のテニスはそれほど甘いものではないのです。社会人には引退がなく強い人はそのまま、さらに下からは凄い新人がどんどん入ってくる（そんな会社もある）というわけで、レベルはかなり高いものがあります。私はダブルスNo.2で出場しているのですが、なぜか“おやじ”と呼ばれる年齢層の方と当たることが多く、しかも相性があまりよくありません。現役の頃OB戦などを見て、「年をとれば自然と老練なテニスができる」と信じていた私の考えは間違いでした。脚力は衰えていてもすごい技術をもった“おやじ”の皆様は若い頃に努力をし、その上で今でもある程度の練習を積んでいる人達なのです。私は相変わらずそういった人達を相手に、1本のエースを取る代償としてつまらないミスをさせられ、結局ゲームを取られてしまうといったことを繰り返しております。20年後には、“あの人、足は遅いのにすごく強い！”と言われるような“おやじ”になれるよう、今から鍛えていきたいと思う次第であります。

とりとめもなく書いてしまいましたが、この辺で筆をおかせていただきます。“おやじ”という文字を見て「自分のことだ」と思われた皆様、失礼をお許してください。

(平成5年4月)



2. 会員便り

会 員 便 り

山科 雄吉 (昭17・応化)

お陰で、まだテニスをやっています(5年位前から)が、仲々出席できません。ご発展を祈ります。

(以上は、平成4年春期OB戦へのご返事の際にお寄せいただいた近況報告の中から選ばさせていただきます。)

高田 重之 (昭7・応化)

私も高令(85才)となり、身体が少し弱り目下養生中です。いずれ元気になったらまたテニスを始めます。よろしく。

青山 秀三郎 (昭9・機械)

いつもながら大岡山時代のテニスを懐かしく思ひ出しつつ、ご案内を読ましてもらっています。最近はめっきり足腰が弱くなってしまいました。皆様のご健闘をお祈りしています。

植田 賢一 (昭14・応化)

現役の皆さんのご活躍を祈ります。

高村 清 (昭16・建築)

毎会欠席ばかりで申し訳ありませんが、手術後体調不十分で今回も欠席させていただきます。御盛會を祈念して居ります。

津田 泰雄 (昭18・機械)

元気にまだテニスをして居ります。

染野 檀 (昭19・金属、元部長)

病気、リハビリ中です。ご出席の皆様によろしく。

井本 商三 (昭19・電化)

テニス・エルボーに悩んでいます。バックを打つと痛いので困ります。

田中 竜雄 (昭28・)

下記の大会に出場しました。

- ・東京オープン選手杯 60才以上 シングルスベスト8
- ・関東オープン選手杯 " ダブルスベスト8
- ・毎日トーナメント " シングルスベスト8
- ・全日本ベテラン選手杯 " ダブルス1回戦で敗退す

森 辰男 (昭28・)

ここ2年来位、身体不調でテニスも止めて居りましたが、大分回復しましたので来春位から再会しようと思って居ります。

磯島 和彦 (元コーチ)

皆さんお元気ですか。なつかしい人(選手)が立派な成績をあげている様で、うれしく思います。仙台で2年目をむかえています。よろしく。

木村 俊宏 (昭40・電気)

今もまだ現役選手として頑張っています。先日10月18日横浜市選手杯シングルス一般の部に出場、2回戦で敗けました。最近は、4回戦以上には何々進めません。毎週練習を欠かさず、まだまだ頑張ります。

寺尾 道仁 (昭40・建築)

今年の前半は半年間に4回国際会議に出かけ、テニスはあまりできませんでした。これから冬にかけて挽回しようと期しています。

中村 健 (昭47・機物)

あまり時間がなくて、ファミリーテニスに甘んじております。

中村 良雄 (昭48・建築)

本年(平成4年)、双子の女兒が誕生し、合わせて3人の娘の父親になりました。

池田 憲亮 (昭53・化工)

最近本格的にやり始めましたが、足腰がいうことをきかず、こまっています。

茶谷 嘉之 (昭56・電電)

今年は、全国実業団対抗テニストーナメント(日本リーグ予選、団体戦)まで出場しましたが、やはり全国の壁は破れませんでした。

(以上は、平成4年秋期OB戦へのご返事の際にお寄せいただいた近況報告の中から選ばせていただきました。)



3. 蔵前テニスクラブ活動報告

平成4年度蔵前テニスクラブ総会報告

平成4年度総会がクラブ規約に従い、春季OB戦当日下記の通り開催され、役員改選が行われ、以下の2件が全会一致で承認されました。

・長年にわたって本クラブのために御尽力下さった、長戸毅会長と長久保大司副会長がご勇退されたことにともない、後任として、会長を久保康夫氏(22卒)に、副会長を村上祐輔氏(28卒)にお引受けいただく。

・山田真幹氏(日大卒・マサスポーツシステム代表)に現役の定期的なコーチをお願いしたこととともなう費用的なバックアップをOB会として行う。

記

1. 日 時 平成4年6月14日(日) P.M.1:30~2:00
場 所 東工大梅林コート横
出席者 出席者36名 委任状81名 計117名

2. 式次第

- 1) 開会宣言
- 2) 定足数確認
- 3) 会長挨拶
- 4) 幹事会活動報告
- 5) 会計報告
- 6) 役員改選
- 7) 会長挨拶
- 8) 副会長挨拶
- 9) 閉会宣言

3. 役員改選結果

会 長	久保 康夫 (S22)	
副会長	村上 祐輔 (S28)	平井 満夫 (S30)
幹 事	山内 辰夫 (S33)	鈴木 洋一 (S35)
	河野 通之 (S42)	沢野 修 (S49)
	野間 明 (S59)	原 和 彦 (S59)
	池上 啓祐 (S63)	堀江 琢 (H3)

平成3年度蔵前テニスクラブ会計報告

平成4年4月14日現在

		(円)
収 入	前年度繰越金	403,797
	年会費(100名)	728,000
	懇親会賛助金	301,000
	銀行利息	2,339
	合 計	1,435,136

支 出	春季OB戦	64,786
	秋季OB戦	83,320
	秋季懇親会	278,000
	現役援助	200,000
	OB会誌	298,752
	コーチ代	120,000
	雑 費	7,375
	合 計	1,052,233

翌年度繰越金	382,903
--------	---------

沢野 修(昭49・機械)・寺井 功(3年度現役会計担当)

平成4年度蔵前テニスクラブ会計報告

平成5年4月14日現在

	(円)	
収 入		
前年度繰越金	382,903	
年会費(128名)	899,000	
懇親会賛助金	387,000	
銀行利息	159	
合 計	1,669,062	
支 出		
春季OB戦	128,181	
春季OB戦懇親会	267,000	
秋季OB戦	68,231	
秋季OB戦懇親会	235,000	
コーチ代	350,000	
現役援助	200,000	
連絡費・その他	20,560	
合 計	1,268,972	
翌年度繰越金	400,090	

沢野 修(昭49・機械)・堀 啓一(4年度現役会計担当)

蔵前テニスクラブ規約

第1条 (名 称)

本クラブは、蔵前テニスクラブ（以下クラブ）と称する。

第2条 (会 員)

会員は次に掲げる者とする。

イ. 正会員: 東京工業大学硬式庭球部出身者で、本クラブの趣旨に賛同し、会員たる事を希望する者とする。

ロ. 推薦会員: 第4条の本クラブの目的に協力し、功績ある者で、本クラブ幹事会において選考の上、総会において承認された者をいう。

なお、入退会については自由意思とし、入退会希望者は、会長にその旨、報告するものとする。

第3条 (所 在)

本クラブの事務局は、東京工業大学硬式庭球部内に置く。

第4条 (目 的)

本クラブは会員相互の親睦を深めると同時に、東京工業大学硬式庭球部との連絡を密にし、これの発展・強化のための援助・指導に努めることを目的とする。

第5条 (組 織)

本クラブに次の機関を置く。

イ. 総会: 本クラブの最高議決機関とし、会長が召集し、会員すべてが参加する。原則として年1回開催し、会長が必要と認めた場合、臨時総会を開催することができる。

ロ. 幹事会: 総会につぐ議決機関とし、会長、副会長、幹事若干名で構成する。会長が必要と認めた場合、開催することができる。

なお、総会は1/5以上、幹事会は1/2以上の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決定する。但し、委任状を出席者に加えることができる。

第6条 (役 員)

本クラブには、以下の役員を置く。

- イ. 会 長 1 名 本クラブを代表し会務を統括する。
- ロ. 副会長 3 名以内 会長を補佐し、会長に事故ある時は、これを代行する。
- ハ. 幹 事 10 名程度 会務の運営にあたる。
- ニ. 顧 問 若干名 会長、幹事からの相談に応ずる。
- ホ. 年度会員 各年度 1 名 各卒業年度の会員への連絡業務にあたる。

第7条 (役員の変任)

会長、副会長は、総会において、会員の推薦により選任されるものとし、幹事、顧問の構成・任命は、会長に一任する。

または、年度委員は、各卒業年度会員の互選により、選任される。

第8条 (役員任期)

第6条の任期は、2年とするが再任は妨げない。

但し、会長の任期は、連続して2期を越えないこととする。

第9条 (会 計)

本クラブの運営は会費、寄附、その他収入をもって行う。

毎年5月を会計年度(5月1日～4月30日)とし、総会において会計報告を行なう。

第10条 (会 費)

会費は別に定める年会費を納入しなければならない。第9条にて定めた会計年度内の入退会者も、年会費を納入する。

但し、年会費の納入は、満60才までの会員とする。

第11条 (除 名)

会員が本クラブの名誉を汚し、又は秩序を乱す行為があった場合は、除名することができる。

(附 則)

第1条 (年会費)

会員毎に年額7,000円とする。

年会費納入のお願い

日頃、会員の皆様の蔵前テニスクラブの運営に対する日頃のご理解、ご協力に深く感謝申し上げます。

さて、当クラブではこれまでに会誌の発行、名簿の整理、OB戦の充実、現役の助成などの事業を推進することで、会員相互、OBと現役間の親睦を深め、現役の発展・強化を図ることを目指してまいりました。これらの活動が、皆様にお納めいただいている年会費により支えられていることは言うまでもありません。前回の年会費改定にご理解をいただいた結果、特に現役助成において、従来の援助に加えて昨年度より定期的なコーチ代の一部を援助することが可能となりました。しかしながら、今後も会誌発行等の活動を永続的に維持し、さらにOB会として現役援助の充実を目指すためにも年会費による収入に頼らざるを得ないのが実情です。

つきましてはこのような事情をご賢察のうえ、本年度の会費納入にご協力いただきたくお願い申し上げます。会計整理・報告をいたします関係上、できるだけ7月上旬までに下記の何れかの方法にてお納めいただければ幸いです。（満61歳に達した会員に方は会則により納入義務を免除されております。）

今後も会員各位よりご意見を賜り、事業、企画について検討を加え、会費の一層有効な活用に努力いたす所存です。

平成5年5月末日

蔵前テニスクラブ

会長 久保 康夫

記

1. 銀行振込

口座名： 蔵前テニスクラブ

銀行名	支店名	店番号	口座番号
第一勧銀	大岡山	145	普1129674
富士銀行	自由ヶ丘	215	普 930838
住友銀行	田園調布	237	普 989773
三和銀行	武蔵小杉	375	普3669055
三菱銀行	自由ヶ丘	110	普4464565

2. 郵便振込

口座番号： 東京1-31174 (加入者払込局 大岡山駅前郵便局)

3. OB戦当日の直接払込



4. 現役活動報告

現役活動報告

(1) 平成4年度関東大学テニスリーグ

〔男子5部〕

千葉商科大学 VS 東京工業大学						
複	No.1	○	竹 本・渡 部	6-1 2-6 6-1	松 田・高 橋	
	2	○	成 毛・松 丸	$\begin{smallmatrix} 7-6 \\ (7-3) \end{smallmatrix}$ 6-1	熊 野・倉 片	
	3		野 村・瀬 能	6-3 $\begin{smallmatrix} 6-7 \\ (2-7) \end{smallmatrix}$ 2-6	井 出・門 倉	○
単	No.1	○	成 毛 高 志	6-0 6-3	井 出 真 吾	
	2	○	松 丸 弘 和	6-0 6-0	倉 片 洋	
	3	○	野 村 元	6-2 6-2	佐々木 康 貴	
	4	○	星 浩	6-2 6-3	門 倉 慶 知	
	5		瀬 能 恭 一	$\begin{smallmatrix} 6-7 \\ (2-7) \end{smallmatrix}$ $\begin{smallmatrix} 7-6 \\ (7-4) \end{smallmatrix}$ 1-6	熊 野 岳	○
	6	○	長谷川 周 平	6-3 6-3	柳 瀬 徹	
7 { 複 2-1 } 2 単 5-1						

國学院大学 VS 東京工業大学						
複	No.1		青 木・鈴 木	1-6 1-6	熊 野・倉 片	○
	2		早 川・竹 内	$\frac{6-7}{(4-7)} \frac{6-7}{(3-7)}$	松 田・高 橋	○
	3		小 竹・三 樹	0-6 0-6	井 出・門 倉	○
単	No.1		早 川 洋 平	1-6 4-6	倉 片 洋	○
	2		鈴 木 武 志	3-6 4-6	井 出 真 吾	○
	3		青 木 義 視	5-7 1-6	佐々木 康 貴	○
	4		小 竹 勝 二	0-6 3-6	門 倉 慶 知	○
	5		五月女 忠 宏	1-6 0-6	熊 野 岳	○
	6		竹 内 康 博	1-6 0-6	柳 瀬 徹	○
0 { 複 0-3 } 9 単 0-6						

一橋大学 VS 東京工業大学						
複	No.1		中 林・根 岸	6-4 3-6 4-6	熊 野・倉 片	○
	2	○	三 浦・高 橋	6-4 6-2	井 出・門 倉	
	3	○	加輪上・河 手	6-0 6-0	松 田・大 谷	
単	No.1		河 手 徹 也	4-6 6-3 1-6	井 出 真 吾	○
	2	○	三 浦 良	6-4 6-0	倉 片 洋	
	3		中 林 文 男	0-6 0-6	熊 野 岳	○
	4	○	加輪上 浩 之	6-0 6-0	大 山 高 平	
	5	○	高 橋 啓	6-4 6-0	門 倉 慶 知	
	6		松 橋 雅 之	0-6 1-6	柳 瀬 徹	○
5 複 2-1 単 3-3 } 4						

東京工業大学 VS 上武大学						
複	No.1		熊 野・倉 片	4-6 6-3 3-6	小 野・ 瓦	○
	2		松 田・高 橋	0-6 2-6	渡 辺・増 田	○
	3		井 出・門 倉	3-6 2-6	羽生田・小 山	○
単	No.1	○	倉 片 洋	6-4 2-6 ⁷⁻⁶ (9-7)	小 野 真 良	
	2	○	井 出 真 吾	6-4 6-2	太 田 裕	
	3	○	熊 野 岳	6-2 6-2	増 田 幸 徳	
	4		大 山 高 平	1-6 0-6	瓦 博 行	○
	5		門 倉 慶 知	3-6 4-6	渡 辺 哲	○
	6		柳 瀬 徹	3-6 3-6	金 子 公 彦	○
3 複 0-3 } 6 単 3-3						

東京家政大学 VS 東京工業大学						
複	No.1		永 田・松 島	0-6 4-6	松 下・春日井	○
	2		牛 込・田 中	7-5 4-6 2-6	稲 葉・大 高	○
単	No.1		永 田 由布子	2-6 1-6	松 下 亜紀子	○
	2		武 田 典 子	3-6 1-6	大 高 かをり	○
	3		牛 込 真 希	3-6 3-6	山 下 裕 子	○
	4		松 島 良 子	2-6 0-6	春日井 真紀子	○
	5		高 頭 理 恵	0-6 1-6	稲 葉 有紀子	○
0 { 複 0-2 } 7 単 0-5						

東京工業大学 VS 東京都立大学						
複	No.1	○	松 下・春日井	6-2 6-1	橋 本・渋谷	
	2		稲 葉・大 高	5-7 3-6	吉 野・吉 村	○
単	No.1	○	松 下 亜紀子	6-3 6-1	江里口 映 子	
	2		大 高 かをり	2-6 1-6	吉 村 知 美	○
	3	○	山 下 裕 子	4-6 $\frac{7-6}{(7-2)}$ 6-2	橋 本 好 恵	
	4	○	春日井 真紀子	6-3 6-2	渋谷 香 織	
	5		稲 葉 有紀子	2-6 3-6	吉 野 順 子	○
4 { 複 1-1 } 3 単 3-2						

東京工業大学 VS 白百合大学						
複	No.1		松 下・春日井	0-6 $\frac{6-7}{(4-7)}$	小 林・神 保	○
	2		稲 葉・大 高	1-6 2-6	坂 田・蒲 野	○
単	No.1		松 下 亜紀子	1-6 1-6	神 保 真 美	○
	2		大 高 かをり	3-6 1-6	河 手 聖 子	○
	3		春日井 真紀子	6-4 3-6 $\frac{6-7}{(4-7)}$	蒲 野 令 子	○
	4		山 下 裕 子	0-6 1-6	浜 由 美	○
	5		稲 葉 有紀子	3-6 4-6	坂 田 深 香	○
0 複 0-2 7 0-5 単						

〔男子第5部〕

東京工業大学 VS 東京学芸大学						
複	No.1		高 橋・小 林	3-6 4-6	石 井・斉 藤	○
	2	○	大 谷・倉 片	6-2 6-2	簡 井・増 田	
	3		原 ・田 代	6-3 5-7 3-6	佐 藤・村中田	○
単	No.1	○	柳 瀬 徹	6-0 6-3	斉 藤 光 司	
	2	○	古 畑 順 也	6-1 6-4	増 田 恭 久	
	3		田 代 啓	1-6 6-4 $\frac{6-7}{(4-7)}$	村中田 博	○
	4	○	片 倉 洋	6-2 5-7 6-0	石 井 鮮 太	
	5	○	小 林 篤 史	6-3 6-1	島 田 巖 介	
	6		本 庄 利 守	3-6 $\frac{6-7}{(4-7)}$	佐 藤 伯 資	○
5 { 複 1-2 } 4 単 4-2						

東京工業大学 VS 産能大学						
複	No.1		安 永・井 上	6-7 (0-7) 1-6	親 松・杉 田	○
	2	○	稲 葉・大 高	6-0 7-5	古 田・服 部	
単	No.1		国 久 亜希子	1-6 3-6	古 田 麗	○
	2	○	稲 葉 有紀子	6-3 6-1	親 松 里 実	
	3	○	安 永 友 子	6-4 6-1	杉 田 綾 子	
	4	○	大 高 かをり	6-3 6-0	服 部 真 紀	
	5	○	高 井 尚 子	6-1 6-2	西ヶ谷 真 子	
5 { 複 1-1 } 2 単 4-1						

3 回戦

東京工業大学 VS 東京都立大学						
複	No.1	○	稲 葉・大 高	6-4 6-3	吉 野・ 進	
	2		安 永・井 上	2-6 1-6	江里口・吉 村	○
単	No.1		国 久 亜希子	0-6 0-6	吉 野 順 子	○
	2		安 永 友 子	3-6 6-3 0-6	篠 崎 貴 子	○
	3	○	稲 葉 有紀子	6-2 6-1	進 望	
	4		高 井 尚 子	2-6 0-6	吉 村 知 美	○
	5		大 高 かをり	3-6 6-4 2-6	江里口 映 子	○
2 { 複 1-1 } 5 単 1-4						

「三年間の部活を振り返って」

平成4年度 主将 倉片 洋

今年1年間の結果は関東リーグ戦5部4位、理工系リーグ戦2部1位というものでした。この結果は去年の4月にたてた目標を達成するものではないので、とてもくやしく思います。特に理工系では厳しい対戦を切り抜け、入替戦に出場したにもかかわらず負けてしまい非常に悔しい思いをしました。

しかし同時に満足出来る部分もあったと思います。それは、昇格するという目標に向けて試合当日には部員全員が、それぞれのすべき事を理解し、それを実行出来た事です。練習試合では、気の抜けている部員もいたように思いますが、リーグ戦では全員がよく出来たと思います。やはり、リーグ戦というのは部員にとって大きな存在であると思いました。

もう少し練習試合の時から全員がリーグ戦を意識して行動していたら、もう少し良い結果が得られたのではないかと今は思います。

次の3年生達がこの経験を生かして、来年こそは、関東、理工系リーグ昇格を達成してくれることを期待します。

平成4年度 主務 畑 毅

何の気なくテニスを始めてからもう3年が過ぎてしまいました。何も分からないままだ夢中で過ごした1、2年生の頃とは異なり、主務という役職に就いて過ごした3年生は特に思い出深いものとなりました。

辛くて、めんどうな問題も数多く生じて大変なこともありましたが、それを皆と協力して解決し乗り越えていくことで一体感が生まれ、部員全員が一丸となってリーグ戦にのぞむことができたと思います。それと同時にお互いの友情を深め合えたことも貴重な体験だったと思います。

戦力的には昨年度のレギュラー6人のうち4人が4年生となり引退してしまったので初期のうちは、今年はどうになってしまうのかと不安だらけでした。1、2年生の頑張りでなんと理工系リーグ2部で優勝するまで成長しました。惜しくも1部昇格はなりませんでした但我々は大きな自信と歓びを得ることができたと思います。

関東リーグは理工系と違い、苦しい試合を強いられました。4部昇格という長年の目標を達成できなかったことが心残りではありますが、皆一生懸命に戦ったので満足しています。

平成4年度女子部主将 稲葉有紀子

私の3年間を振り返ってみると、それはそのまま東工大女子硬式テニス部の歩みであるように思います。3年前、男子部員に混じって頑張っていた二人の先輩方と私達1年生3人などで女子部が発足、本格的に活動を開始し、理工系リーグ戦に参加しました。11部から始まり、平成4年度はついに8部昇格を果たすことができました。一方、関東学生リーグ戦は第5部トーナメントの中で、3年間シード権確保、あわよくば4部昇格を目指して練習を重ねてきました。今年度リーグ戦では残念ながら目標達成できませんでしたが、今後後輩達はその反省と経験を生かして活躍してくれることと思います。

3年間いろいろありましたが、同期の4年生に助けられながらも主将という大役を無事終えることができ、ほっとしています。最後になりましたが、試合を見に来て下さったOBの久保さん、村上さん、コートの確保の為に御尽力をいただいた磯島さん、何かと面倒見ていただいたOGの松下さん、春日井さん、その他応援して下さい下さったOBの方々には大変感謝しています。本当にありがとうございました。今後とも御支援の程、よろしくお願いします。

平成4年度女子部主務 大高かをり

こんな話を聞いたことがあります。

部ができてから2～3年間は部の組織をきちんとするのが大変で試合どころじゃない。

この3年間は女子部ができてからの3年間でした。それなのに、私達は当然のように試合もしてるし、勝ってもあるし、昇格もしています。とてもめぐまれた3年間だったと思っています。

女子部にしっかりした「はじめの1歩」をふませてくれた、OBの方々また隣でいつもささえてくれた男子部の皆に感謝するとともに、現役の女子部員が女子部をさらに立派なものにするように祈っています。

本当にすばらしい3年間をありがとうございました。

「新年度に向けて」

平成5年度主将 柳瀬 徹

早くもこの部に入り2年が経ち、いよいよ自分達が部をまとめる学年となりました。僕自身としては夏合宿の時に次期主将となる事が決まっており、現在に至るまでそれなりに時間がありました。初めのうちは「主将」という大役に対する漠然とした不安で一杯だったのですが、副将、主務その他いろいろな係を決め、ミーティングを重ね「来年はああしよう、こうしよう」などと話しあっていくうちにその不安は自分達の代への期待へと変わっていきました。それと言うのも皆が「強い東工大硬式庭球部でありたい」と心に思っているからだと思います。今年は幸いレギュラーもほとんど残り戦力的にはかなり心強いと言えます。またコーチの山田さんにも毎週来て頂く予定です。という訳で今年、男子は4部に昇格します、昇格させますので今後とも先輩方のご指導、御声援よろしくお願いします。

平成5年度主務 清藤幹雄

自分が主務という責任ある仕事をさせていただくにあたり、自分がやっていけるのだろうかとして少し不安を感じることがあります。特に今まで私に関わってきた久保さんや畑さんの姿を思い出すと、偉大な先輩たちの後を継ぐのだから、気をひきしめてしっかりと仕事をしなければと思い、身がひきしめる心境です。

今後は、新主将のもとにチーム一丸となってがんばっていくつもりです。そして、目標である関東の4部昇格、理工系の1部昇格を実現させるために、私も微力ながら精一杯がんばって新主将を助けていきたいと思っています。

テニス部に在籍している今までの2年間で、いろいろなことを学ばせていただきました。そして、これからも日々勉強だと思い多くのことを学ばせていただこうと思っています。

今後も温かく、そしてときには厳しく御声援をよろしくお願い致します。

平成5年度女子部主将 井上 薫

四月に行われました関東リーグに於いて、4部昇格を目指していた私達は、3回戦で東京都立大学と当たり、2-5で敗れてしまいました。4年生の引退と共にレギュラーが2人引退してしまいましたが、関東リーグ4部昇格を目指して部員一丸となって練習に励んでいくつもりです。そして、関東理工系リーグ8部優勝、7部昇格を実現させるため頑張ります。

我部の今現在の状況を述べさせてもらいますと、3年生が3人、2年生が4人いて、それぞれがテニスの技術を高めようと日々努力しています。新1年生はまだ分かりませんが、今年女子が初めて100人を超えて入学してきたので、経験者が入る事も期待出来ます。

最後に、私達女子部員のいろいろな点に於いて、力不足が否めません。今後とも、諸先輩方の御指導及び応援等御願ひ致します。

平成5年度女子部主務 国久亜希子

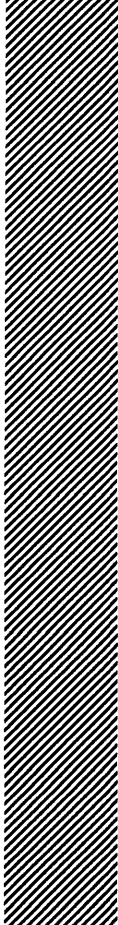
テニスコートをいろいろ桜の花も散り、いよいよ代がわりの時期がやってまいりました。

私達女子部では、レギュラー2名が引退してしまい、今度のレギュラーの試合経験が少ないことは否めません。また、女子の多くは初心者からテニスをはじめた人が多いことを考慮に入れますと、なかなか容易にはいきません。

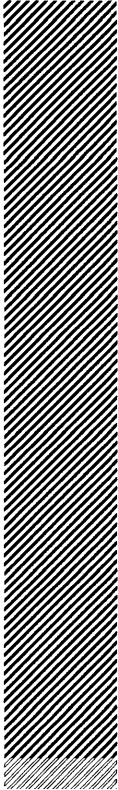
しかし、経験が浅いということは、試合を多くこなしていくうちに、より多くのことを学び強くなっていくという未知の魅力も残されていると思います。女子部一丸となって頑張っていく所存であります。

また、本年度の女子の新入生は百名を超えましたので、部員が増えることと期待しております。

まだ前の2代には及びませんが、OB・OGの皆々様、御指導の程よろしくお願い申し上げます。



5. 編集後記



編 集 後 記

この度の会誌発行にあたり、寄稿その他掲載記事の執筆をお願いいたしました会員の皆様には、ご快諾いただき心から感謝申し上げます。

編集幹事の力不足のため、不十分な点多々あると思われます。お詫び申し上げるとともに、編集の方式・企画・特集などについて、ご意見、ご感想がございましたら、幹事までお寄せいただければ幸いです。次号発行の際に役立たせていただきたいと存じます。

最後に、会員名簿の整理・編集の際に現役OB会系の皆さんの協力を得ましたこと、編集幹事より感謝いたします。

編集幹事

原 和彦（昭59・応物）

池上 啓祐（昭63・機物）

蔵 前 テ ニ ス ク ラ ブ 会 誌

発 行 日 平 成 5 年 6 月

発 行 蔵 前 テ ニ ス ク ラ ブ

印刷部数 4 5 0 部

印 刷 (株) サ ン 企 画